松風村雨

せ
5
100
別圖
WA 8
2
3

国立国会図書館　タイトル『[謡本]』 請求記号 WA8-2
ガラス使用

ロキハ

是ハ諸國一見乃僧ともいとられ未
西國を見すかしほうこに此度男立
ちハ〳〵行脚と心ゆてゆくきい
しほうこ是ハきやう津の國とゆの海と
かやゆ山と見ゆるへをうれて横有
きるる松乃ゆ名横、ゆれおきゆ、
ゆきに此行ゆ見乃へよ壽ゆと思い

大正
3. 6. 16
購求

国立国会図書館　タイトル『[謡本]』　請求記号 WA8-2
ガラス使用

梅ハ咲桜ハ散て松ばかりとて
二人乃ものゝ高砂やこゝろ
やハ春ハ焼まぬれぬ
世乃さゝいそぐ
見とゝ
ゆ
ゆ
秋乃日のゝ

国立国会図書館　タイトル『[謡本]』　請求記号 WA8-2

ガラス使用

彼行平の中納言をきかつこうるとゝ
なりめ給ひつゝ八月の頃なるくゝ
京なりしさ海の家にとまりぬ
道路の月よりあはれもおもしろ
うさ世のわさかうごとよつたなき
ものゝ少年の行ちうねたる夢のさ
めとやいとうう堀江車

ゝくるまの中は海人の秋をよ思ひ
をほさぬごろかなりいとゝふ
をりかる芦のまろやまもも
上弦月の月のてしほを思ひやるくゝ
影さゝきあすき新すゝ君を車を
ひくしほの跡よのこれるたまわ水
ひまをすきハちつへきかの中の苫乃

国立国会図書館　タイトル『[謡本]』　請求記号 WA8-2
ガラス使用

露のうぶかけまくもうと
きよらもしをへよるわもかぐ海の
きて夢のたつよ杉まるの秋
かるく　面白やあわくも哀
ゆふ雲の月のゆくえ
仲よちひろきの浦船の音幾
月のほうのすゝや女千鳥哀

ゆもきよかの百万
秋のりきのあるの
やる　小ぶくまほ
みちのきほ哀
たよう弟　きほ
ぶよりとても
歸るうとは
芦毛の田鶴社

国立国会図書館　タイトル『[謡本]』　請求記号 WA8-2
ガラス使用

立ちの帯四方乃尻
もゝ
ゝとすこしの帯り月う
やうれをぐ
ゝ
きりぬをゝぬ乃
うち秋のをすこぬ
をまの物さ乃月
ぬ
ぬ物をく
上ロ三地
をふ

その真名や
ぬ
ぬ
ぬ

乃や　あるこのきほくまうきかすと
人まや　ゆるもつまをくく　明る家
堀をくゝるとをそゝ　れそ月ゝ　堀よ
ゆもも　見へるも月乃　ゝたるや
ゝゝゝ

見くるき堰屋にしほうに物宿ハ
かゝるまゝきとよく　四段目
ゐるよ其由
よてしへいぎほやうちに見くるをし
ほうこゝかやといかるゝまゝきゆ伝ん　五段目
いやく見くるきいくるゝかゝれん
出家ゝとゝてしへいだらに一番とゝ
かゝるきく給りしへと言て帝よへ

いやるひくまゝ　三段目　おりくゝ月の夜　七段目
かゝきよ見てまゝきて世をすてん
ゝくゝかゝるゝまゝ家ゝ松の木枝よ　中
竹ゝかゝきよゝ山ゝくゝと思へ　花芦
火よゝるゝてゝたゝ面と面きとよへ
こゝるゝとゝるゝへゝ　五段目　ゐるゝゝらゝゝゝ
かゝまゝくゝするゝて　三段目　始ゝゝ物宿

まことたくいひつまきの浦を見若和
ひとうに枕ものとしてん
有親ゝ出家と申候としはそうの
つへきなりねこうなくを富と定
ひへきまと此世の海の石あるん
人はかりとももてしうまれ
どく死ようふんあるふきの浦よ

ほしたきつるふとさるんよと行平
を詠ゝ給ひとありしなりけりよ
やとまつの松のねもとのんよ尋ていへを
杉風村雨二人の句ゝ乃四位とやし
ほうに道縁なりうつりてしう
ゝ浦といつまでもうつりまつ松風村雨
乃ようとしてひへそこ二人を連

きやうは是いかとやたる事をそなた
うや思ふうちよあまいかとかあるよ
うにしたらはやくやはくはるよりまん
あらうとうはなるうちは時よりあるきま
はて利根はうえ山のうへ利根はのうえ
地をぬうしたらふ
ものうはといとい此世をあきんの言

葉をうよくくはれ
るくうはいかくはれ
ものよりをを市ものへ
はとまたくはくはと思ん
はうは跡をよりまほ
のうはめうをはは此うへは
けをのはのをつをくまは思ふ

夕雲よだの松陰乃こをのたゞき
ゆとられまいともつる桜風村雨二人
乃世の幽霊見まて来りる桜も
行年三年うほとゝぎつまゝ乃宵
ありし月よりハ海乃海ゝほを
もこの世ゝをとめおかるゝえられ
まゝもつおりまれたるゝまれや

そて桜風村雨とゝなれよりの月もも
ゝ乃雲乃海の雲のゝ雲ほやきこゝ夜多
ゝ碧くがとゝのきゝ世ゝたき也
かゝて三年を過ひ行年みやこよ
ゝり紛ひ ゝくほとゝるゝそよゝ海
ゝゝ紛ゝとゝゝゝ知ゝ宮しや
ゝるゝもゝ乃世乃雲ゝを

下ニ
松風も村雨も彼のをぬれくらし
やるかたもなくなりぬるとのの
あまもすつるかしこ弘ふるてふ
給へ　上三六　宿草乃露もなかしも秋き
ぬるかしこ心相氣なるれ衣の只の日
乃ぞ　ひやりてあ部のたまきし
浪乃うへ　あられ　はきしぐるる也

廿
あられ　ふるへを思ひをもとめ
行平乃中納言　ふるせ　ハ　宮　乃
うぐひす　こへ　ら　給　の　此　後
ひ　こ　ゆ　て　ゆ　立　ち　ぬ　ま　を
物　直　ら　へ　ら　も　ど　是　を　見　る　た　ら　よ
ば　や　ま　乃　里　乃　草　な　な　き　な　ま　を
露　乃　ま　も　ひ　ら　れ　て　ら　あ　ち　き　あ　や

ぶこそ、海ハ和ふれもなく、
ぶ高く陸もなんとゞんしを
とりや行四方そうふ者き
上ニテ
ふしくよぬきて和めるかうもも
月
かきてう賴せかるし世をもし
和そそうかしてうもうかる
しいが行ても直きしれい面景よ

たちまちかたきあしわそまくるね
ぶ山ふ源よ
弘ちうしのせめくき　三郎ふ
和きうしよるそうるき
だくあうこのうきをもあ
うしのかちハきうあや
和きよ行平のかちあうれと
めそれのあうやいそまいふ

おもかや　長うは故よろこ　桃太の罪
もきりうをぶ　番はまて乃妻鶴を
ぶ　ぶ　下　上
れ　ぬ　ぬ　ぬ

山乃うねなりまつときくそへ今
ゆくりなくうれしきこゝろ
見ハまつ君家よりの海ハ
まつ乃ゆきしらゝ立てこゝ
きよ、ハ立よりそゝぐまつ乃お
つゝや　松よ吹らるゝ
ぎ風乃たゝれこそきよすから

妄執乃夢よりあらゝ我ゝ
てだし給へゝ風やてゝ
ぎ風乃うゝ吹やうゝ乃山
松乃ゝ間乃鳥もゝ
絶なくよ夢も
明て村雨と中ゝ
れて松風やのゝ

せ
5
100

右百番之中有感直
傳石岡が左表章句付
依波板紀州今清書
加奥書耳

元和六年　記世左近大夫
卯月日　首原

旧請求記号
寄別5623

国立国会図書館　タイトル『[謡本]』　請求記号 WA8-2
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[謡本]』　請求記号 WA8-2

ガラス使用